

TEAM TARO



SANMEI Team TARO PLUSONE TARO SEKIGUCHI RACE REPORT

JSB1000
11



2022 MFJ 全日本ロードレース選手権シリーズ 第3戦 AUTOPOLIS SUPER 2&4 RACE 2022

大分県・オートポリス (1周=4,674m)
クラス: JSB1000 マシン: BMW M1000RR タイヤ: BRIDGESTONE
2022年5月21日(土) 天候: 雨のち曇り コース: ウエット~ドライ
レース1 予選: 13番手 (タイム: 2分01秒621) 決勝: 11位
2022年5月22日(日) 天候: 晴れ コース: ドライ
レース2 予選: 13番手 (タイム: 2分02秒237) 決勝: 11位
観客動員数: 8,500人 (2日間合計)



TARO 着実なステップを踏めたオートポリス



全日本ロードレース選手権シリーズ第3戦は、2戦続けて4輪スーパーフォーミュラと併催の2&4レースとなり、大分県・オートポリスで行われた。事前テストはなく、金曜日からの走行開始となっており、BMW M1000RRを初めてオートポリスで走らせる関口にとっては、ぶっつけ本番で迎えるレースウィークとなっていた。前週に宮城県・スポーツランドSUGOで第4戦に向けた事前公開テストがあったため、JSB1000クラスのチームは、ハードスケジュールとなっていたが、SUGOテストでM1000RRの方向性が見えかけてきていただけに、その流れでオートポリスに入れたことは大きかった。



初日となった金曜日は、まずは足回りのセットを2パターン試し、いいフィーリングの方でセットを進めていく。その結果、バネレートが足りなくなってきたため、スプリングを固いものにして土曜日に試すことにした。

公式予選は、ウェットコンディションとなったが、予定通り固くしたスプリングのままコースイン。走り出しからフィーリングもよく、ドライでも機能することを確認できていた。

気温も低く、なかなか路面も乾かず霧雨も降る難しいコンディションでのタイムアタックとなったが、ベスト、セカンド共に13番手につけた。



レース1が始まるころには天気もよくなり気温も上がってきていた。スタートは、冷静に1コーナーを目指し前のライダーを追う。3周目には、1台をかわし、1台が第2ヘアピンでコースアウトしたため2つポジションを上げるが、4周目に抜き返されてしまう。その後は、ペースを維持しにくい状態になるが、何とかポジションをキープしてゴール。



レース2に向けてレース1で問題になっていた部分が明確に分かったため修正し、朝のウォームアップ走行で確認。いい手応えを感じてレース2に挑んだ。



レースが始まると、4周目の第2ヘアピンで柳川選手をかわすが、序盤で前と差がついてしまっていた。レース1より気温も上がり路面コンディションもよくない中、レース2の方がペースもよく、最後まであきらめずに追っていく。その差はジリジリ詰まっていたが、勝負するところまでいくことができずに11位でゴール。レース1と同じ順位だったが、レース2の方がいい内容のレースとなっていた。



■関口太郎コメント

「今回のオートポリスも走る度にステップを踏めた感じでした。今まで機能しなかったことも機能するようになりましたし、いろいろ確認できたこともありました。新車から開けていないエンジン、ブレーキやサスペンション等ほぼST仕様で、ここまで走れるのはM1000RRのポテンシャルを感じます。さらに理解を深め上位争いに絡めるよう、全力でいきますので、今後とも応援よろしく願っています」



TARO

このリリースへのお問い合わせは、
下記メールアドレスまでお願いいたします。
E-mail : tarosekiguchi@gmail.com